

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.10.5 No. 86 連絡先 FAX 042-555-1911



在日米軍がマンガで 日米安保をアピール

在日米軍は、日米安保改定 50 周年を記念し、日本の若者を対象に日米同盟の意義を伝えるマンガ「わたしたちの同盟—永続的パートナーシップ」をホームページで公開し、2 万部を米軍基地や防衛省で無料配付しているそうです。全 4 部構成のうち、公開されたのは第 1 部。

主人公は米国の少年「うさクン」と日本人の少女「新居あんず」。「うさクン」は米国を意味する「USA」のローマ字読み、「新居あんず」は同盟を意味する英語「アライアンス (alliance)」に引っ掛けたネーミングだそう。うさクンはあんずに、「大切なトモダチ」としてあんずの家

を守るためにやってきたと説明しています。日本を守るために米軍がきたと言いたいのでしょうか。マンガは、2 人の主人公を通じて、在日米軍の役割や日米同盟の意義を学べる内容となっているのです。マンガという手段を用いたことについて、在日米軍広報のニール・フィッシャー (Neal Fisher) 少佐は、AFP の電話取材に対し、日本ではコミュニケーションの手段としてマンガがよく用いられているためと説明したそうです。アメリカも、日本の将来を担う若者をターゲットに「日米同盟と米軍・自衛隊の一体化の重要性」を理解させようとしています。

軍事一体化の危険な実態を、もっともっと、知らせていかなければ、と思います。

自衛隊観閲式 米軍機が初参加 日米安保の重要性を印象付けるねらい

10 月 24 日に陸上自衛隊朝霞訓練場 (埼玉県新座市) で行われる自衛隊観閲式で、在日米軍が初めて航空機の編隊飛行など参加するとの報道がありました。日米安保改定から 50 周年を記念する関連行事の形を取り、正式参加とはしませんが、日米安保体制の重要性を印象付ける狙いがあるといえます。今年の観閲式は、4 千人規模の自衛隊員らが参加を予定しています。

自衛隊の観閲式は毎年、陸、海、空が持ち回りで開催。去年は、海上自衛隊の観艦式に、副総理だった菅直人首相が首相代理として出席しました。観艦式の帰りに海上自衛隊艦船「くらま」が関門海峡で韓国船籍のコンテナ船と衝突したことを覚えている方も多いと思います。

岩国 米軍属による轢殺事故 日本に裁判権を

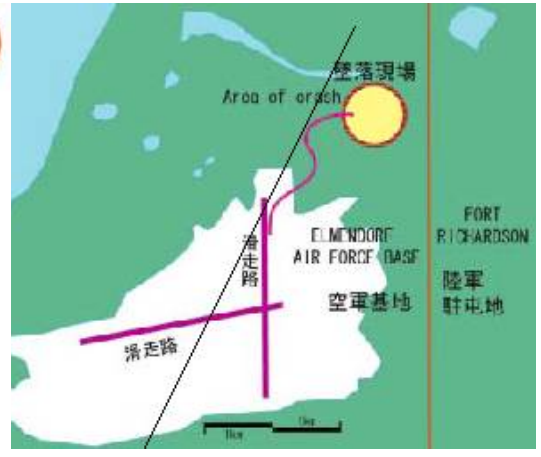
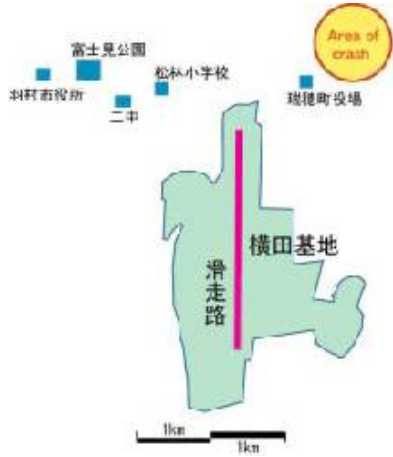
9 月 7 日、岩国で轢殺事故を起こした米軍属は「公務中」ということで米軍に第 1 次裁判権があり、日本に裁判権がありません。日本平和委員会は、9 月 30 日、外務省に、第 1 次裁判権を取り戻すように要請。併せて地位協定の改定も要請しました。

武蔵村山のバイク女性重傷：米兵の子に懲役 2～3 年求刑

武蔵村山市の市道にロープを張り、バイクの女性を転倒させて重傷を負わせたとして、傷害と往来妨害の罪に問われた米兵の子の無職少年 (19) の論告・求刑公判が 17 日、地裁立川支部であり、検察側は懲役 2～3 年の不定期刑を求刑しました。弁護側は共犯の 3 少年が家裁送致されていないことから少年の起訴を「違法」と主張、公訴棄却の判決などを求め結審しました。判決は 11 月 12 日に言い渡されます。(No. 83 でお知らせした公判日は誤りでした。お詫びします。)

アラスカでの大型輸送機の墜落事故 横田基地で起きていたら? (No. 86 の裏面)

羽村市9月議会で、C-17 大型輸送機が米アラスカ州のエルメンドルフ空軍基地で墜落した事故について質問があり、市長は「防衛省を通じて横田基地に確認したところ、横田基地の所属機ではないため、情報を把握していないとの回答」と答弁しました。福生市でも同様の答弁でした。頻繁に飛来する米軍機の事故情報を把握しないのは問題です。(図は羽村民報 HP 版より転載)



横田で 過去に18,000ガロン(ドラム缶340本分)の燃料漏れ事故があった!

大量の燃料 (JP-4) 漏れ事故が発生したのは、1993 年 10 月 25 日でした。18,000 ガロン (6 万 8 千㍓) の燃料漏れという重大な事故が地元自治体に伝わったのは、なんと 10 日後でした。地元自治体は抗議や様々な要請をしました。が、情報はわずかでした。地下汚染状況の最終報告書 (英文) が東京都を通じて地元へ届いたのは、なんと 2 年後。地元市町長は、最終報告書の全文を日本語訳にする、燃料の除去作業や進捗状況の報告書の開示など要請しました。

「この場所は調査され、燃料漏れ事故に対処するため約 10 年の歳月と 200 万ドルの経費を費やして浄化された。」と、除去作業を打ち切り最終報告書を出したのは 2003 年 5 月でした。

1999年～2006年 横田基地と関連施設で7年間に90件の有害物質漏れ

米国の情報公開法に基づいて開示された資料から明らかになったのが、7年間で90件の有害物質漏れです。資料は一橋大大学院生の林公則さんらが入手しました。

米軍側の流出量などによる区分で分類すると、流出量が1万ガロン(約37,800㍓)以上で危険度が「公衆の健康や安全に深刻な脅威を与える」とされる事故は1件です。2004年8月、横田基地の関連施設の所沢通信施設で、2万9百ガロンの軽油が流出しました。地元へ情報提供されたのは、この1件

横田基地の漏れ事故の件数 (漏出量別、報告書の有無別) 単位: 件

だけです。この資料以降に燃料漏れ事故はなかったのでしょうか。今年7月に燃料漏れ事故が1件表面化しましたが…。

* 2006年8月10日に情報公開された米太平洋軍の資料より、林公則氏が作成。
* 1ガロンは、約3.785㍓に相当。
* EIIB (Environmental Incident Investigation Board) (漏出量別、環境事故調査委員会)

		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	計
事故総数		4	11	4	7	14	16	28	6	90
漏出量 (ガロン)	10,000 以上	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	1,000 ~ 10,000	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	100 ~ 1,000	0	0	3	2	1	0	0	0	6
	100 未満	3	8	1	3	13	15	26	6	75
	不明	1	3	0	1	0	0	1	0	6
EIIB 報告書	有	0	0	3	3	1	2	1	0	10
	無	4	11	1	4	13	14	27	6	80